

第44回 国際福祉機器展 H.C.R. 2017 報告

1 | オープニングセレモニー

多くの来場者や後援・協賛団体のご関係者などにお集まりいただいたなか、全国社会福祉協議会 斎藤十朗会長の開会宣言により(写真)、第44回国際福祉機器展 H.C.R. 2017は会期3日間の幕を開けました。開場前に催された『くす玉オープン』は、斎藤会長、H.C.R.海外コーディネーターのベン・アプロ・ラスムセン氏 [欧州担当]、トム・ボーチャディング氏 [北米担当]、高井康行本会理事長などによって執り行われ、展示会がスタートしました。



- ・日時 2017年9月27日(水) 9:50~
- ・場所 東2ホール前

2 | 15か国・1地域からの526社・団体が出展

出展社数は、国内の企業・団体が447社・団体(うち、新規出展は47件)、海外からは15か国・1地域より79社・団体(うち、新規出展は24件)が出展し、特に、海外からはフィンランドが新たな出展を行いました。

総面積51,380㎡の会場に、各国からの20,000点を超える福祉機器、介護用品が総合展示されました。

国名	社数
オーストラリア	1
カナダ	2
中国	6
デンマーク	14
フィンランド	1
フランス	2
ドイツ	8
日本	447
イタリア	2
韓国	4
メキシコ	1
ニュージーランド	1
スウェーデン	6
台湾	14
イギリス	6
アメリカ	11

3 | 15回目の出展を迎えた企業・団体に対して感謝状を贈呈

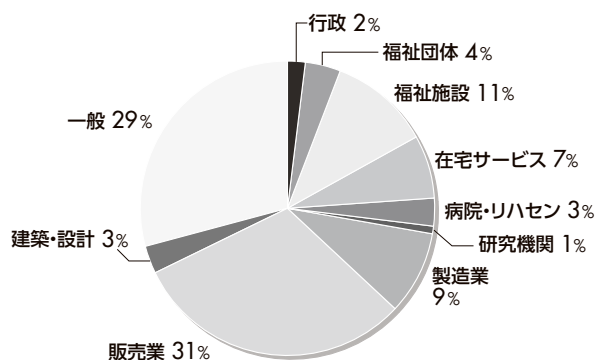
H.C.R.では展示会初日の9月27日(水)に、本展示会への15回目の出展を迎えられた企業・団体に対する感謝状と記念品を、該当する国内6社・団体および海外1社(うち、国内1社は贈呈式欠席)に対し、ガレリア・東2ホール前のステージにお招きして贈呈しました。

- 15回出展感謝状贈呈企業 (国内6社・海外1社)
 - ・グンゼ株式会社
 - ・株式会社シクロケア
 - ・株式会社シナノ
 - ・日本介護食品協議会
 - ・株式会社マキテック
 - ・リナック株式会社
 - ・AKROMED FRANCE (France) ※社名五十音順

4 | 来場者数は121,528人にのびりました

第44回国際福祉機器展H.C.R. 2017の来場者数は、3日間の通算で、のべ121,528人にのびり、来場者の分類では、一般の方が29%と例年同様に多く、販売業関係者も31%とほぼ同割合であり、続いて福祉施設の11%、製造業9%、在宅サービス7%という順となりました。

H.C.R. 2017 来場者数データ



5 | 出展製品

【製品別出展社数一覧(述べ件数)】

移動機器	
手動車いす	44
車いす関連用品	75
電動車いす	35
電動三輪・四輪車	8
自転車	4
介助車	9
歩行器・歩行補助車	46
杖	34
ストレッチャー等移動器具	8
移乗補助機器	30
床走行リフト	26
固定式・据置式リフト	18
介助・歩行補助ロボット	16
障害者用自動車運転装置	12
車いす専用福祉車両	13
入浴用特殊車両	3
福祉施設等業務用自動車・エコカー	7
ベッド用品	
ベッド	29
マットレス・床ずれ防止製品	51
サイドテーブル	11
介護用シーツ	11
ベッド用品(その他)	15
入浴用品	
浴槽	23
入浴用チェア	27
滑り止め用品	13
浴槽台	7
入浴用リフト	11
入浴用品(その他)	20
トイレ・おむつ用品	
ポータブルトイレ	20
便器・便座	11
防臭剤・消毒剤	7
トイレ関連用品	18
おむつ関連用品	8
自動排泄処理装置	9
衣類・着脱衣補助用品	
衣類	16
靴	15
帽子・保護帽・かつら	2
着脱衣補助具	2
コミュニケーション・見守り機器(聴覚・視覚・その他)	
補聴器	3
緊急通報・見守り装置	33
障害者用OA機器、ソフトウェア、操作補助具	14
障害者用AV機器	3

拡大読書器	4
活字文書読上げ装置	3
福祉電話、FAX、携帯会話補助器	2
視覚障害者用誘導システム	1
コミュニケーション関連ロボット	11
コミュニケーション・見守り機器(その他)	31
建築・住宅設備	
スロープ	27
手すり	28
エレベーター	2
段差解消機	12
階段昇降機	12
建築・住宅設備(その他)	18
リハビリ・介護予防機器	
歩行等訓練機器	33
リハビリ用教材・機器	37
筋力トレーニング機器、身体機能訓練機器	34
口腔ケア用品	13
義肢・装具	
義肢・装具	18
日常生活支援用品	
自助具	19
障害者スポーツ・レクリエーション用品	14
介護関連用品	28
日常生活支援用品(その他)	30
介護等食品・調理器具	
食器用具・食器	14
キッチン	6
調理器	5
高齢者・障害者向け食品	8
福祉施設・住宅環境設備・用品	
施設建築、施設用床材・壁材	5
洗濯機・乾燥機、掃除機、脱臭器	7
いす・座位保持/立ち上がり補助用品	15
家具、テーブル、洗面台	16
火災報知設備、自動消火設備	1
防災・避難用品	5
介護職員用衣類	7
福祉施設・住宅環境設備/用品(その他)	9
感染症等予防用品	
空気清浄器、加湿器、消毒器	11
感染症等予防用品(その他)	13
在宅・施設サービス経営情報システム	
福祉事業関係コンピュータシステム	41
出版・福祉機器情報	
福祉・介護・リハビリ・保健関係書籍・教材、情報誌、新聞、放送通信、福祉機器関連webサイト	25

6 | 高齢者の家族介護の現状とその支援をテーマに開催した国際シンポジウムは満席に

H.C.R.では、わが国と海外に共通した福祉・介護分野の課題について、諸外国から招いた専門家による報告を基にした国際シンポジウムを、毎年展示会と併せて開催しています。

H.C.R. 2017では、「高齢者の家族介護の現状とその支援について～ヤングケアラーやダブルケアなどの課題を考える」をテーマに開催しました。

わが国では、高齢化が進展する中、介護を必要とする高齢者も増え続けており、地域包括ケアシステムの構築を通じて、できる限り住み慣れた地域や在宅での介護や予防を重視する取り組みがすすめられています。

しかしその一方で、施設でも在宅でも適切な介護サービスが受けられない高齢者や老老介護、育児・子育てと介護の両方を担うダブルケア、介護離職、また家族介護の担い手となっているヤングケアラーの問題なども指摘されてきています。

そこで本シンポジウムでは、要介護高齢者等の家族介護と介護者支援の取り組みについて、先駆的な実践を展開しているイギリスから講師を招き、その現状と課題の検討、また日本の現状についての論議を踏まえ、わが国の今後の関連の取り組みを展望するうえでの考察の場としました。参加者は会場の定員に達し、279人にのぼりました。本シンポジウムの内容は報告書にまとめ、本年2月に刊行する予定です。

H.C.R. 2017国際シンポジウム 9月28日(木) 13:00～16:00

高齢者の家族介護の現状とその支援について ～ヤングケアラーやダブルケアなどの課題を考える

○講師 [シンポジスト]

①デンマーク/マデレーン・スター氏：
ケアラズUK 事業開発・イノベーション担当
ディレクター

②日本/堀越 栄子氏：
日本女子大学家政学部教授、日本ケアラー連盟代表理事

○チューター

塚田 典子氏：日本大学商学部教授、
一般財団法人保健福祉広報協会理事

○会場：会議棟6F 605～608会議室



7 | H.C.R.セミナー

また、例年に引き続き、介護・福祉機器の展示と併せ、福祉サービスを利用されている方々やそのご家族、保健・福祉・介護の関係者、企業関係者などの来場者に対して、関連する制度の動向や課題、福祉サービスの質の向上や施設の経営をめぐる最新の情報などを提供する場として、H.C.R.セミナーを開催しました。

いずれのセミナーにも多くの関心が集まり、一般来場者をはじめ、社会福祉施設の役職員、介護支援専門員、ホームヘルパー、社協役職員など専門職も含めたのべ2,486人が参加し、それぞれのテーマに対する理解を深めました。

(1) 一般、福祉利用者・家族向け

① 一般家庭の介護で腰痛にならないための基本技術 ～ボディメカニクスの理解と活用

会場	会議棟6F 605～608会議室
日時	9月27日(水) 10:30～12:00
講師	青柳 佳子氏 浦和大学短期大学部 介護福祉科 特任教授

② 介護ロボットの活用で未来を拓く

会場	会議棟6F 605～608会議室
日時	9月29日(金) 14:00～15:30
講師	五島 清国氏 公益財団法人 テクノエイド協会 企画部長

③ はじめての福祉機器 選び方・使い方セミナー

(会場：会議棟1F レセプションホール)

「基本動作編」「自立支援編」「住宅改修編」の3編をさらに以下の10のテーマに分類し、3日間にわたりセミナーを開催しました。



9月27日(水)住宅改修編	●トイレ・排泄用品 ●住宅改修 ●入浴機器
9月28日(木)基本動作編	●ベッド ●リフト等移乗用品 ●杖・歩行器等補助用品 ●車いす
9月29日(金)自立支援編	●福祉に役立つ一般製品 ●福祉車両 ●自助具

④ 高齢者むけの手軽な日々の食事

～総菜やレトルト食品をおいしくバランスアップ

高齢者の一人暮らしや、高齢者夫婦世帯が増えています。こうした世帯では、長寿化が進むにつれて、毎日の食生活のために料理をつくることも、栄養バランスを考えて手間をかけることも、大変なことです。

そのため、日々の食事を市販のお弁当などで済ませる方も多くなっています。そこで、コンビニの弁当やスーパーの総菜・レトルト食品などをもとにして、ひと工夫を加えることによって、毎日の食事を、簡単で、豊かに、かつ、栄養のバランスがとれる食事の作り方と実演にてご紹介しました。

当日配付したパンフレットでは、レシピと食事づくりのポイントをわかりやすく説明して掲載したほか、過去4年間のレシピを集約したレシピ集の販売と併せて、「特設会場C」の特設ステージにおいて、会期中の毎日13:00～14:00の時間帯に「高齢者の料理講座」として開催しました。

日時	9月27日(水)～29日(金)の各13:00～14:00の時間帯
講師	今 寿賀子氏 虎の門病院栄養部前部長 押田 京子氏 虎の門病院栄養部副部長

(2) 福祉職向け

① 福祉施設の実践事例発表

～役立つ活かせる工夫とアイデア

会場	会議棟6F 605～608会議室(A、B会場分割発表)
日時	9月28日(木) 13:30～16:00
発表事例	<p>≪A会場/高齢者福祉施設・事業所における工夫事例≫</p> <p>(1)四條畷荘いっぴくステーション『よろか』 ～商店街の空き店舗を活用した地域福祉の拠点作り～</p> <p>(2)認知症になっても安心して暮らせる地域を目指して ～所沢市三ヶ島地区認知症SOSネットワーク模擬訓練報告～</p> <p>(3)全ての職員が働きやすい職場 働き続けられる職場を目指して</p> <p>(4)All For One みんながひとりのために ～多職種連携による外出支援計画に基づく支援～</p> <p>(5)ICT (Information and Communication Technology) を活用した業務改善とその効果 司会進行：湯川 智美氏 社会福祉法人 六親会 常務理事</p> <p>≪B会場/障害者福祉施設・事業所における工夫事例≫</p> <p>(1)特別支援学校通学児のための支援「モーニングサポート」について ～法人資源を有効活用した地域貢献事業～</p> <p>(2)特別支援学校の業務経験から活かす就労継続支援A型事業所の取り組み ～就労・宿泊体験を通じ、利用者(児)の自立支援について考える～</p> <p>(3)メンタルコミットロボット【PARO】の更なる可能性について ～障害者支援施設での活用方法と利用者の変化～</p> <p>(4)障害者支援施設における介護ロボットスーツの活用実践</p> <p>(5)障害者施設における災害対応事例と防災体制の強化 ～台風災害による長期断水への対応例を中心に～ 司会進行：久木元 司氏 社会福祉法人 常盤会 理事長</p>

② 福祉施設における感染症の知識と対応

～知っておきたい感染症対策のポイント

会場	会議棟6F 605～608会議室
日時	9月28日(木) 10:30～12:00
講師	石原 美和氏 宮城大学 看護学群 教授

(3)企業関係者向け

① 高齢者・障害者に役立つ生活支援用品の紹介とその開発視点

会場	会議棟6F 605~608会議室
日時	9月29日(金) 11:00~12:30
講師	星川 安之 氏 公益財団法人 共用品推進機構 専務理事

8 | H.C.R.特別企画 (常設展示・相談・デモンストレーション)

① アルテック講座2017～身の回りにおけるテクノロジー (アルテック)で創る豊かで楽しい生活 (東6ホール 特設会場B)

多くの人の身の回りにおけるテクノロジー (アルテック)を用いることで、障害のある人の生活が大きく変わります。たとえば、印刷物を読めない人でも電子書籍や電子新聞であれば簡単に読むことができます。音声が使えないためにコミュニケーションに不自由を抱える人もスマートフォンでチャットを楽しみ、アプリを入れれば音声で会話することも可能です。そのほか、鉛筆を持たないなどの理由でメモをとれない人はICレコーダやデジカメを上手く活用すれば記録がとれるなど可能性は大きく広がっています。



このセミナーでは、誰もが日常活用しているスマートフォン、タブレット、パソコン、ICレコーダ、デジカメなどのICT (情報通信技術)製品を、障害のある人の生活や学習支援に活かすアイデアとともに紹介しました。



【講座テーマ】

9月27日 (水)	1.アルテックを読み書きなどの学びのツールに変える —アルテックを用いた発達障害や認知障害のある人の生活支援— 2.Windowsパソコンのアクセシビリティと応用 —アルテックを用いた障害のある人の生活支援— 3.スマホやタブレットのアクセシビリティ —肢体不自由の人がスマホやタブレットを使いこなす—
9月28日 (木)	4.障害者差別解消法とアルテックの意味—合理的配慮の1つとしてのアルテック利用— 5.障害者雇用とアルテック—障害者雇用現場でのアルテック活用— 6.身の回りにおけるテクノロジー (アルテック)が支援技術に変わる —高齢者や障害のある人の生活支援—
9月29日 (金)	7.視覚障害のある人のスマホ・タブレット活用 —アルテックを用いた視覚障害のある人の生活支援— 8.スマホやタブレットを生活支援ツールに変える —アルテックを用いた肢体不自由のある人の支援のポイント— 9.アルテックを利用した重度肢体不自由や重複障害のある人の生活・コミュニケーション支援

② 障害児のための「子ども広場」 (東6ホール 特設会場C)

子どもたちと一緒に来場された保護者が、広いホールのなかで子ども向けの機器を探し歩く負担を軽減するために、H.C.R.では今年も「子ども広場」を会場内に設置して該当する製品を集中展示したほか、福祉機器の利用や療育に関する相談コーナーや、保育士が常駐する「ひとやすみコーナー」などを設けました。



また、「現在も未来も大切です！子どもの住宅改造 (肢体不自由・発達障害)相談コーナー」も設けました。

a. 福祉機器展示コーナー

会期中3日間にわたり、親子が参加して試せる子ども向けの福祉機器の常設総合展示と製品説明を行いました。

<展示製品> いす・カーシート、食器・食器/衣類・靴、車いす、バギー・歩行器、学習機器/コミュニケーション機器など

b. 相談コーナー (無料、療育相談と福祉機器相談)

3日間にわたって相談員2名を配置し、11:00~12:00、13:00~14:30、15:00~16:00の3回、無料で相談に応じました。

c. 現在も未来も大切です！子どもの住まい (肢体不自由・発達障害)相談コーナー

日程：9月27日 (水)~29日 (金)の各日13:30~16:00に

専門職による相談

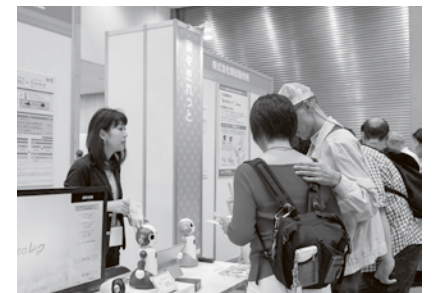
(a~cの運営協力：横浜市総合リハビリテーションセンター)

d. ひとやすみコーナー

保育士が常駐して、広場のおもちゃを使って子どもたちと遊んだり、保護者のみなさんと子育てについてお話しする場として設けました。
(dの運営協力：東京都社協保育士会)

③ 福祉機器開発最前線 (東6ホール 特設会場C)

企業や研究機関の開発、試作状況などの最新の情報提供や紹介を行う本コーナーでは、今年も、経済産業省のロボット介護機器開発・導入促進事業や厚生労働省の障害者自立支援機器等開発促進事業の対象製品を含む計10点の最新の機器の展示とデモンストレーションを実施しました。



1. 株式会社 エイビス	高性能高齢者安全確保みまもりシステム [みまもり支援システム(履歴参照機能付き)]
2. 株式会社EINS	障害児(者)向けで移動も簡単な、ベッド上で使える [ナノミストバス(在宅用)]
3. 東日本電信電話株式会社	コミュニケーション機能のほか、カメラ撮影機能、遠隔対話機能を持つクラウドアプリ「ロボコネクト」
4. 株式会社 Enhancelabo	映画・放送等の音声を、スマートフォンやタブレット端末で認識することにより、日本語字幕等が表示されるメガネ型ウェアラブル端末「b.g.」
5. 株式会社 岡田製作所	家庭用トイレに組み込まれた排泄支援ロボット [楽々きれっと]
6. 株式会社 OTON GLASS	「読字障害者」や弱視者等のための、視点と同位置の文字を音声で読み上げるメガネ型機器 [OTON GLASS]
7. 国立障害者リハビリテーションセンター 研究所	車いす、自らの足を使うことでリハビリにつながる歩行器を一体化した製品 [C-FREX(脊髄損傷者用カーボン長下肢装具)]
8. パイオニア株式会社	障害者と健常者がともに身体で感じ映像を楽しめる、軽量パネルスピーカーと振動による「身体で感じるミニシアターシステム」
9. 兵庫県立福祉のまちづくり研究所 ロボットリハビリテーションセンター	物体の形状に合わせて把持できる、多指機構を有し、軽量で極めて装飾性に優れた量産型筋電義手
10. 横浜市総合リハビリテーションセンター	公共の屋内施設での徒歩移動の長距離化等への対応としての、全方位駆動車輪機構によるコンパクトなパーソナルモビリティ試作機器

※企業名は五十音順

④ ふくしの相談コーナー (東6ホール 特設会場C)

作業療法士や技師などの専門家が来場者の自助具や福祉機器に関わる相談に無料で応じました。

(協力：日本作業療法士協会、大阪府肢体不自由児者協会大肢協ボランティアグループ自助具の部屋)

⑤ 被災地応援コーナー (東2ホール内 小間番号2-15-06)

災害に見舞われ、復興に取り組みながら製造・生産活動に取り組むセルブ (障害者就労支援施設・事業所)の製品を販売しました。